

## 景況実感調査(2017年11月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 表面処理鋼板は、熱延・酸洗ほどではないが在庫が歯抜け状態になってきた。入荷も遅れていて、改善の見込みも薄いので大切に売っていきたい。収支は赤字が続き、利益無き繁忙となっている。メーカー値上げ分の転嫁は必達目標である。
- ② 実稼働日 20 日となり、対前月 1 日減。売上、数量共に 1 日分は減となった。小口、短納期者が多く、バタバタしている割に数字に反映されていない。建築野丁場物件も屋根、壁は来年年明け以降から、内装関連は 4 月以降からが仕事量のピークを迎えそうなスケジュール感となっている。単価もジリジリと切り上がっており、スクラップ価格の高値安定下で安売りできる余地はない。
- ③ メーカーの引受けカットが継続され、市中在庫のタイト化が加速すると予想される。採算重視の販売姿勢を継続し、値上げ分の完全転嫁を図っていく。
- ④ 建設関連は 2020 年まで高生産を想定している模様。仕入価格上昇分の転嫁が遅い。収益改善が急務。需要が活発なのは良いが、収益が今一つのため困惑している。

### 中板

- ① 自動車向けも、今のところ無資格検査問題の大きな影響もなく堅調であり、建機も来年度にかけて依然として増産傾向、さらに建築関連も首都圏では中小物件を含めて動き出したことから、鉄鋼需要は全体的に好調をキープしている。一方、供給面ではメーカーの引受けカットに加え、納期遅れ、さらには輸入材の手配も難しいことから、熱延を中心に在庫に逼迫感が漂い、歯抜けが散見される。10 月末のコイルセンター在庫も、熱延を中心に低くなっており、11 月末にはさらに減少しているのではないかと。ただし、その割には市況の大きな上昇は見られず、前月比 1,000 円/ト程度の上昇で、下値が切り上がった状態である。また、ユーザー向けの販売価格転嫁も道半ばで厳しい状況が続いており、販売業者にとっては懸念材料である。

### 厚板

- ① 店売り末端実需が好転し、転嫁値上げに向けた販売価格引き上げへの市況環境が整ってきた。

### 开形鋼

- ① 例年、9～11 月の 3 ヶ月は繁忙期なのだが、今年は期待が大きかった反面、盛り上がりには欠けた。定時に仕事は終わり、残業はこの 3 ヶ月ほとんど無かった。市況の回復は順調だが、仕事量をもっと欲しい。
- ② 公共物件の価格が上げられずに、鋼材等の材料価格が反映されない。現場の人件費のみ反映されていて、なかなか景気の上昇が感じられない。

### HI 开形鋼

- ① 11 月の倉出しは微増し、季節なりの出荷。土木向けの加工が増えており、加工先が無く納期が間に合わない。メーカーの再値上げもあり、流通は早急に転嫁していく。

## 異形棒鋼

- ① 在庫販売は前月と同様に堅調だが、建築向け物件販売は大きく低調であった。メーカーの価格押し上げが急激なため、今後の物件販売はさらに不振が予想され、先行きは厳しいと見られる。

## 平鋼

- ① 店売りの動きが悪く、物件の動きに頼っている状況。メーカーからの値上げ転稼を行っているが、ユーザーの抵抗感が強い。

## 軽量形鋼

- ① 季節なりの需要が出て来ており堅調な商いが続いているが、まだ週によってバラツキがあり、強気にはなれない。年明けも続いてくれれば良いのだが。
- ② 受注量に関しては前年比、前月比共にやや減少。来年3ヶ月は徐々に受注減の見込み。以降は不明。
- ③ 12月までの特需により前月並み。

## 鋼管

- ① 引き続き値上げ基調。デリバリーがタイト化しており、値上げ環境が続く。
- ② 日当たりの出荷量が11月中旬から減少。市況の強含み推移は変わらず、歯抜けサイズも見られる。

## 構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は国内及び海外向けKD部品輸出を含め、全体的に堅調な動きが続いている。建設機械関連は中小型機種に加え、原料採掘用の大型機種が増加しており、しばらくは続くものと思われる。工作機械及び半導体装置についても堅調な動きが続いている。メーカーの追加値上げに伴い10月から再販価格の値上げを実施している。市中在庫は、各メーカーの受注抑制や納期遅れもあり、タイトな状況となっている。
- ② 店売りの状況は先月と変わらない。仲間問屋同士の売買が目立つ。
- ③ メーカーの値上げの動きが顕著。今後、出荷数量(売上)・在庫数量(仕入)に動きがあると思われる。

## 鋼材全般

- ① 10月よりは数量及び単価とも若干だが上がった。年内はある程度の数量が見込めるが、出荷量に伴いトラックの手配が例年より大変である。更なる値上げを実施し、仕入れ価格とのバランスを保つ。

## その他

### <スクラップ>

- ① スクラップ価格は約4年ぶりの高値になっている。国内の電炉メーカーのスクラップの購入動向は地域的にかなりの差があるものの、海外市況次第では12月にかけても強含みで推移していくのではないだろうか。

### <金属表面処理加工>

- ① 11月、紐付きは予定通り。物件物の出図遅れにより当初予想扱い量の10%ダウンとなる。スポットも予想以上に低い水準であった。引合い状況はプラント、橋梁案件が先納期ではあるが増えており、今後期待。「ジンク系塗料」「研磨材」等の購入品が10月より大幅に値上がりしており、加工単価への転稼を検討中。